

■寺沢国子 アメリカで日本語新聞を発行し続け、日系移民の支えとなった。

てらさわくにこ

白馬会・・・1896＝ 長野県の飯田で、資産家村松金太郎の次女に生まれ、國と名づけられる。

日露戦争終 1905＝9歳：この年、長野県下伊那の名家に生まれながら家が破産した寺沢畔夫が借金返済のためにと渡米し、

伊藤博文暗殺1909＝13歳：カリフォルニア州議会で排日土地法案審議が始まった年、ロサンゼルスからソルトレークシティに移る。

明治天皇没 1912＝16歳：

大正政変・・・1913＝17歳： 排日土地法が成立。

第一次大戦始1914＝18歳： この年、ソルトレークシティで畔夫が日本語新聞{ユタ日報}を創刊。
飯田高等女学校を卒業すると、父に願い出て上京し、共立女子職業専門学校被服科に入学。

教員免許を取得して帰郷し、母校の裁縫教師となり、自立をめざして頑張るうち、

大暴落・・・1920＝24歳： この年、排日土地法案がユタ州議会にも上程され、

原敬首相暗殺1921＝25歳： 阻止キャンペーンで売上急増し日本政府の協力を求めて帰国した畔夫と同僚教師の代役で見合い結婚、

水平社結成 1922＝26歳： 夫がソルトレークシティに戻るのに従って渡米、現地日系人の意見もあって国子と名乗るようになる。

関東大震災 1923＝27歳：

円本時代始 1926＝30歳：長女が誕生。

満州事変・・・1931＝35歳： 満州事変後、アメリカの対日政策が悪化し、日系人の国籍問題もシビアになって行く。

五一五事件 1932＝36歳：次女が誕生。

国際連盟脱退1933＝37歳：

日中戦争始 1937＝41歳：

第二次大戦始1939＝43歳： 夫が急性肺炎に罹って急逝、{ユタ日報}の存続こそ夫の遺志と従業員や後援者に助けを求めると、社員は一丸となって働いてくれ、既に日系人に不可欠の存在となっており、有力者らが次々広告を出してくれて、たまっていた借金は帳消、経営が盛上るとともに、自らも車の運転を覚えて集金旅行へ出かけたが、

日米開戦・・・1941＝45歳： 日米開戦で全米の日本語新聞とともに発行停止処分となり、日系人は強制収容所入りとなるも、

・・・1942＝46歳： *アメリカ政府が情報を正確に伝える必要から他の2紙とともに再刊を許され、政府提供記事だけでなく、"収容所便り"のコーナーなども設置したため、全米の収容所からの購読申込みまたたくまに全国紙となる。
敗戦・・・1945＝49歳： *しかし、敗戦で収容所から日系人が戻り、日本語新聞が次々復刊されるに従い、読者が激減、発行回数を減らし、社屋も郊外へ移転、社員も減って行く。

新憲法施行 1947＝51歳： 日系米国人市民協会が両国間の平和を願って計画、{ユタ日報}紙上でも寄付を募った日本庭園ができる。

朝鮮戦争始 1950＝54歳：

独立回復・・・1951＝55歳：

イヌクワテマ 1958＝62歳： ソルトレークシティと長野県松本市が姉妹都市提携。

美智子妃・・・1959＝63歳：

安保闘争・・・1960＝64歳：

霞ヶ関ビル 1968＝72歳：

石油ショック1973＝77歳：

鉛活字が磨り減るも更新せず、

JALハイジャック 1977＝81歳： 最後の従業員が死去して後は、二人の娘と次女の長男だけの作業となり、

竹下登内閣 1987＝91歳： エイボン女性大賞に選ばれ、受賞のため一時帰国、

ドイツ統一・・・1990＝94歳： 夫の創刊以来77年間発行し続け、{ユタ日報}11876号が事実上の最終号となり、

ソ連崩壊・・・1991＝95歳： なお活字を組むも発行されずに、没した。

産経「日本人の足跡3」、